

山行報告書

作成: 2006年8月15日

愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	安曇川・ヘク谷 [比良山系]	目的[方法]	夏の沢登りを楽しむ
期間	2006年8月4日(金)～6(日)	形態	各日帰り(テント泊)
参加人数	5人		

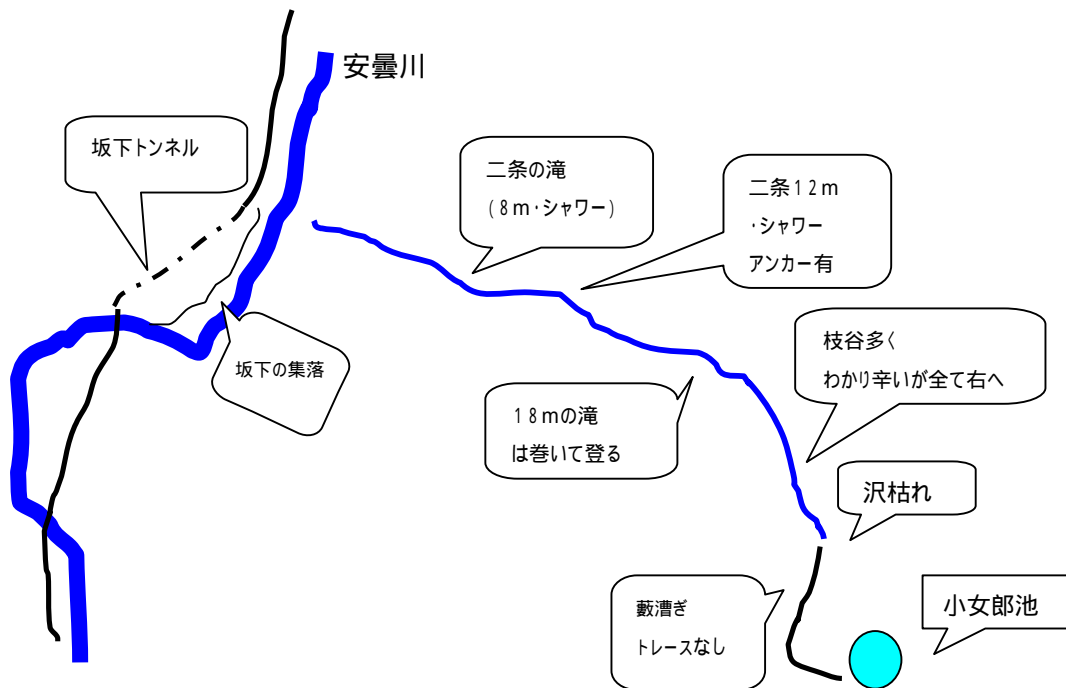
行動記録:

8/4(金) 晴れ

岩津市民センター(2200) == 豊田東IC == 木之本IC(1120) = 琵琶湖湖畔野宿場(1150)

8/5(土) 晴れ

野宿場(610) = 坂下/標高 350m(800 815) -- 二条 12mの滝付近(1030) -- 沢枯れ付近(1400) -- 登山道(1415)
 -- 小女郎池(1430 1500) -- 坂下P(1635) -- 朽木温泉てんくう(1800 1900) -- 朽木道の駅/野営場(1910)



日誌:

前日の夜のうちに琵琶湖湖畔まで行き、小さな公園のあずまやにて野宿。深夜、蚊に悩まされる。

翌朝、入沢口の坂下までは車で約2時間。意外と時間がかかる。安曇川沿いの道の路肩に車を止め準備をし、いざ沢登りへ。

初めての沢登りで歩き始めは、足場の不安と不慣れでいささか遅れがちであった。夏とはいえ朝の沢は涼しく、水も思ったより冷たい。いくつかの小滝群をこなし、ようやく要領を得てペースに乗ってきた頃1つ目の核心「二条の滝」に出る。まずリーダーが取り付き、セカンドで私が取り付く。滝の中は意外とホールドが豊富で見た目ほど難しくはない。冷たいシャワーが心地いい。一度、5M以上の滝を越えるとやみつきになる。次なる滝との出会いに心が躍りだす。

次は二条12Mの滝。途中アンカーが打ってある為、ザイルビレイして登る。シャワーを頭から受けて冷たいが楽しい。このヘク谷のルートは沢登りの入門の谷ということで、確かにその後も怯むようなシチュエーションはなかったが、安全第一ということで4回ほどザイル確保をして登る。

途中の落差18Mの大滝は巻いて登るが、同じ巻くにしてもなるべく滝の近くを巻けないものかと素人ながら考えてしまう。何度かのザイルの出し入れもありなかなか前へ進まないが徐々に水の流れも少なくなり、やがて水も枯れる。暑いさなかに20分ほどヤブ漕ぎをすると登山道へ出る。もう1度沢の冷たい水に浸かりたいと思うも、既に水はなし。現在地を確認し、小女郎池にて大休止後下山。

感想:

途中、私のチープな沢釣り用の靴(というよりフェルトのついた靴下)が壊れるアクシデントもあったが、初めての沢登りを思う存分楽しむ事が出来ました。

ルートファインディングやビレイしてくれるリーダーや同行の人達によってこのようなスリリングな遊びが出来ることに感謝。